

やまなし

2012.3.21
vol.9

no. 2

contents

2 書物は人を自由にする—図書館の語源—

4 利用者の声

5 学生にすすめる本

6 子ども図書室リニューアル

7 図書館トピックス

- 「法情報総合データベース」・「今日の診療WEB版」を
学内LAN接続PCから利用可能
- 講演会「自殺予防の基礎知識」を開催〔医学分館〕
- 8 ● 新館資料の移動〔本館〕
- カレント雑誌コーナーリニューアル〔医学分館〕
テーマ展示
- 「新生活におくる本」開催中〔本館〕

The Yamanashi
Bulletin of the University of Yamanashi Library

書物は人を自由にする — 図書館の語源 —



テラサキ ヒロアキ
教育人間科学部長 寺崎 弘昭

語源にまつわる話が好きです。

たとえば、大槻文彦『大言海』第三卷(1934年)を覗いてみれば、日本列島語「そだつ」の語源的解釈として、次のような記述が用意されています。

「巢立つるヨリ移ル。養むも羽裏むナリ。」

こんな記述を見るだけで、想像力は刺激されま
す。そうか、「育つ」は雛鳥が成長して「巢立
つ」ことなのか、「育む」はそんな成長のために
卵や雛鳥を羽根の裏で温かく覆うことなのか、と
いった調子です。卵を羽裏むというイメージは、
さらにヘルマン・ヘッセの『デミアン』(1919
年)を読めば、雛鳥が卵を内側から破ってこの世
に現れ出る生命的な行為のイメージを喚起し、そ
うした生命・自然の意地らしいほどの力強さを
温かく覆い支え励ます、これまた生命的な行為の
イメージを「育む」ということばに重ねること
となります。

ことばとイ
メージを限りな
く羽ばたかせ、
わたしの想像力
を、自分でも予
想しなかったと
ころにまで連れ
出して自由にし
てくれる、それがわたしにとっての書物です。



図書館は英語でライブラリー(library)です
が、このライブラリーの語源はご存知ですよ。

英語の語源を手っ取り早く知るには、寺澤芳雄

編『英語語源辞典』研究社(1999年)がお勧めで
す。もちろん、そのベースにある全20巻以上に及
ぶ『オックスフォード英語辞典(Oxford English
Dictionary)』にもあたってみるに若くはありま
せん。これは、19世紀後半以降の大英帝国の威信
を賭けた大編纂事業の成果で、多数の用例を収載
していることもあり依拠するに足るものである
ことはまちがいありません。しかも、いまで
は、CD-ROM一枚で検索可能になっていますから、
便利このうえもありません。

とはいえ、そんな辞典類を覗いてみても、さし
あたり結論は同じです— 図書館、ライブラリー
(library)は、ラテン語liber(書物)を語源とす
る。なるほど、図書館は書物(liber, ギリシア語
でビブロス)の集積所です。

しかし、語源がラテン語だというのですから、
さらにラテン語辞典を覗いてみましようか。手
元に田中秀央編『羅和辞典』研究社(1952年)が
あれば、それで結構。そうすると、意外なこと
に出くわします。というのも、“liber”という単
語が二つ載っているのです。一つは名詞で、「書
物、文書」の意味。もう一つは形容詞で、「自由
な、暇な」といった意味。これは、わたしの想像
力をまたしても刺激します。形容詞の“liber”
は、名詞の“libertas”つまり「自由」(英語で
liberty)、動詞の“libero”つまり「自由にし
る、解放する」(liberate)と一連のものです。

かつて16世紀フランスの人文学者エラスムス
が、このことを論じて、書物と自由と子どもを一
体の事柄として大事にしていたことを、思い出し
ます。“liberi”は、「子どもたち」の意味なの

です。子どもたちは本来自由なのであり、子どもたちには自由と書物こそがふさわしい、というのです。わたしならば、不謹慎にもその輪に、小アジアから古代ギリシアに渡来した酒神バックス(ディオニュッソス)を加えます。なぜなら、ラテン語辞典を見れば、“Liber”は、バックス神と同一視された古いイタリアの神の名だからです。酒神ディオニュッソスは、古代ギリシア悲劇の一つエウリピデス「バックスの信女たち」にもその伝説の一端が描かれています。酩酊と眩暈、自由と破壊と治癒の神です。

そんな連想を重ねてくれば、図書館はたんなる書物の集積所だと言うだけではすまされないこととなります。たしかに、「書物」はそれまで声としてあった「知」を文字として定着させたものですから、さしあたり、その集積所である図書館は「知の体系」を体現したものです。そうであるべきだと思います。しかし同時に、これが肝心なことなのですが、その「書物」は人間を自由にするものなのです。

したがって、図書館は、それが体現している「知の体系」からさえ人間が「自由」になることも、「書物」によって可能にしてくれるはずだ、ということです。「知の体系」は、往々にして時代とともにある惰性的パラダイムにすぎず、多分に砂上の楼閣であるかもしれません。そんなわたしたちの思考を束縛する「知の体系」から超え出る自由をも、「書物」は可能にしてくれるはずです。

フランスの哲学者・歴史家だったミシェル・フーコーが1975年に行なった対談記録「わたしは花火師です」(ちくま学芸文庫、2008年)は、そうした、「知の体系」から人が自由になることを可能とする「書物」を差し出す「花火師(アルティフィシエ・爆破技師)」たらんとする彼の意思を

表明したものです。フーコーは言っています。

花火師であること、それはまず地質学者であることです。土地の地層を、褶曲を、断層を調べます。掘削しやすいところはどこか、抵抗があるところはどこか、そして砦がどのように構築されたかを観察します。身を隠したり、攻撃を仕掛けたりするのに役立つ起伏を詳しく調べるのです。……

アルティフィシエ

繰り返しますが、わたしは花火師なのです。

わたしは自分の書物が地雷であり、爆発物の包みであると考えています……。そうであってほしいのです。

ここでは、「知の体系」は知の地層の歴史的堆積とみなされています。意気込んだためかなんとも過激なものの言いになっていますが、パリの古文書館に籠って営々と「書物」の産出に勤しんだフーコーの姿を彷彿とさせます。また、人間を自由にする「書物」、酒神ディオニュッソスが顔を覗かせている「書物」の祝祭を彼が思い浮かべていることはよくわかります。こんな書物も、図書館の隅に隠れているのです。



紹介された本

<p>「デミアン」 ヘルマン・ヘッセ作</p>  <p style="font-size: small;">本館2F 一般書架 *世界文学全集 54 「郷愁」 *ドイツの文学 5 「ヘルマン・ヘッセ」 にも収録</p> <p style="font-size: x-small; color: red;">本館書庫・文庫新書和 943</p>	<p>「わたしは花火師です」 ミシェル・フーコー著</p>  <p style="font-size: x-small; color: red;">本館2階 新着書架 135.57</p>
---	---



voice

図書館の環境

医学部 看護学科 3年
スギヤマ ノゾミ
杉山 希実

はやいもので入学してもう3年になる。1, 2年生の頃はあまり図書館を利用していなかったが、3年生になって実習が始まり、図書館を利用することが増えた。そこで感じたのは周りに同じように頑張っている人がいることで自分にも良い刺激となるという事だ。やっている事は違えどみんな将来につながる勉強のために本を探したり机に向かったりしている。そんな勉強のための集中空間に身を置き、周りを見渡すと、自分も頑張らなければと気が引き締まる。また週に一度カウンター業務をやらせて頂いており、普段は学年や学科が違うため会うこともほとんどない人でも、図書館を頻繁に利用している人では顔を合わすことが多くなる。もちろん図書館以外の場所で努力を積み重ねている人もたくさんいるだろうが、図書館という一つの勉強の場へ足を運ぶことに積極的な様子は勉強熱心で直向きな努力をしているように映る。

ただ一つご検討頂きたいのが夏場の空調管理だ。昨年の9月下旬から実習がスタートし、暑さの峠は越えたとはいえ、日が完全に沈んだ特別利用時間帯であっても二階はまるでサウナのように何もしなくても汗が吹き出てきた。それでもやらなければならない事があるので多くの人が集まっていたのだが、正直集中するには過酷な環境であったと思う。3.11で節電が叫ばれていた影響もあるとは思いますが、どの季節でも、特に耐え難い暑さの夏は、職員が帰った後も利用者が快適に過ごせる環境を残して欲しい。



voice

1枚の紙から…

財務管理部
ワタナベ ダイスケ
渡邊 大輔

「ワトスン君。ここに1枚の書類があるのだが。」
ホームズは1枚の書類をとりだした。
「どう思う？」
(コナン・ドイル『グロリア・スコット号事件』
「回想のシャーロック・ホームズ」)

本は紙と言葉の集まりです。しかし、その中には、人々の見たこと、聞いたこと、感じたこと、考えたことが詰まっています。

インターネット、ツイッター、フェイスブック…。今、こうした「つながり」は、国境を越え、言語を越え、広がっています。

本もまた、いろいろなつながりの入口です。その紙面を通して、国境を越え、言語を越え、そして、過去にまでさかのぼることができます。

本は、活字になった時点で「過去のもの」。時を経て、「古典」となります。本は、著者のアタマが言葉となったもの。その言葉は著者のものです。

しかし、私たちはその言葉から、様々なことを感じ、想像し、考えることができます。

「たくさんの言葉を可能な限り正確に集めることは、歪みの少ない鏡を手に入れることだ。歪みが少なければ少ないほど、そこに心を映して相手に差し出したとき、気持ちや考えが深くはっきり伝わる。」
(三浦しをん「舟を編む」)

「価値のあるものを買うのではなく、自分で価値が作れる人間は強い。」

(映画「森崎書店の日々」 原作：八木沢里志)

名探偵ホームズは、1枚の手紙から、その人の人となり、暮らし向きなどを推理します。

あなたは、1枚の紙から、どんなことを想像できますか？

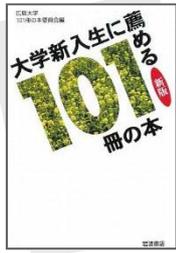


学生にすすめる本



BOOK 1

『大学新生に薦める101冊の本』



広島大学101冊の本委員会 編集
岩波書店

工学部 生命工学科

ウイ サダハル
宇井 定春

多様性が大切なことは、健全な高度社会を構築する上から自明のことであり、我々の思想、信条それに行動全てに言えることである。何より、生命系自身が、微生物を含めた多様な生物の連携の上に成り立つことを忘れてはならない。多様性の喪失は、人類存亡の危機となる。しかし、我々人間は競争社会において効率を求めるあまり往々にしてその大切さを忘れる。その先、誰も勝者がいなくなることなど考えも及ばない。深謀遠慮などほど遠く、当面、自分たちが勝者になれば良い、それが全になる。

一方、社会動向への重要な判断において、特に閉塞感が漂う社会において、世は短絡的に多様性を排する発言やマスコミの受け売り、さらには単なる追従に流れる傾向がある。しかし、その状況下にこそ自分自身の目を多方面に向け再度見開く必要があるのではないか。そのためには多分野について本を読み、教養を広め自分の頭で考えることである。それが思考判断において、また社会が発展進化するための独創的突破口を生む。

その意味で学生諸君に先ず読んで頂きたい本がある。岩波書店からの「大学新生に薦める101冊の本（新版）」である。以前旧版で話題になった書なので既に読まれた方もおられよう。読書のガイドブックであるが、特に新生対象に限ったものではなく一般人にも役立つ「広島大学101冊の本委員会」の労作である。全六章から構成され、教養への誘い、人間の記録、パラダイムを超えて、戦争と平和への希望、現代の重要問題、本の選び方について名著の案内がある。また、各章の最初には「こころのこる言葉」がつく。これだけ読まれてもよい。是非一読あれ。多くの良い本に出会い人生の糧と成ることを願いつつ。

019.9

[本館2階 一般書架]

BOOK 2

『 職場が生きる人が育つ

「経験学習」入門 』



松尾 睦 著
ダイヤモンド社

医学部 成育看護学講座

コバヤシ ヤスエ
小林 康江

大学に入学して同じ月日を経ているなかで、成長していると感じる人はいませんか。同時期に就職した中で、1年、2年と経つうち、成長していると感じる同僚、1年目の時とあまり変わらないと感じる同僚はいませんか。あるいは、自分は他の人より遅れていると思う人はいませんか。なぜ、同じことを経験していても、成長が違うのでしょうか。その答えが明らかになる本書を紹介させていただきます。

人の成長の過程には、「経験から学ぶ力」の有無が影響します。人はいかに経験から学び、成長するのでしょうか。「経験から学ぶ力」とは何なのでしょう。この本を読めば、「経験から学ぶ力」の構成要素とその関係性、経験から学ぶにはどうしたらよいか、さらに学ぶ力を高める方法がわかります。

学生、教員、臨床スタッフの方、管理者の方、それぞれの立場で必ず参考になる本だと思います。併せて、本書の理論的ベースとなる「経験からの学習 プロフェッショナルへの成長プロセス、同文館出版」もお勧めします。

336.47

336.47

SHO

[本館2階 新着書架] [分館2階 開架図書(第2)]

こちらもおススメ!!



『 経験からの学習 プロフェッショナルへの成長プロセス 』

松尾 睦 著
同文館出版

336.47

KEI

[分館2階 開架図書(第2)]



2012年2月6日、子ども図書室が附属図書館旧第一分室に移動し、新しく生まれ変わりました。新しい子ども図書室は、広々とした開架スペースとこぢんまりした読み聞かせスペース、収納スペースなど多機能を備えた1階建ての建物（蔵書4,024冊）です。子ども図書室は2002年5月25日、附属図書館3階の会議室（蔵書972冊）で産声をあげました。

初日の記録によれば、開室を待ちわびたかのように400名を越す親子が訪れたそうです。その後、子ども図書室は旧放送大学の建物の1階に移り、図書の貸し出しの他、読み聞かせや子どものためのイベントを行ってきました。また、2006年から山梨県教育委員会と共催で「子どもの読書活動推進スキルアップ講座」も実施しています。子ども図書室は子どもの読書活動を推進する大学の地域貢献とともに、学生の実践教育の場としての意義をもち、開設以来、学生ボランティアが管理・運営に主体的な役割を果たしてきました。学生による活動は大学の図書室ならではの大きな魅力のひとつになっていますので、今後も多くの学生に参加してほしいと願っています。大学正門にも近く、一層利便性が高まった子ども図書室に是非お立ち寄りください。

(山梨大学附属図書館子ども図書室長 鳥海 順子)

子ども図書室イベント[連続講座]報告

山梨大学と山梨県教育委員会共催の連続講座「子どもの本の魅力」の第4回と第5回が、11月22日と2月16日に行われました。第4回のワークショップでは、和やかな雰囲気ながら、みなさん真剣な表情でアドバイスを受けていました。第5回は絵本と音楽のコラボレーションで、非常に多くの方が参加されました。とても好評で、早速実践してみたいなどの意見をいただきました。



「連続講座 第5回 絵本と音楽」



子ども図書室の連続講座は24年度も行う予定です。どうぞお楽しみに。

こどもとしょじつ

図書館トピックス



◎ 4月から、学内LANに接続されているパソコンから利用可能

○ 「法情報総合データベース D1-Law.com」

これまでの加除式の法令集・判例集に替えて、「法情報総合データベース D1-Law.com」を4月から導入します。

「法情報総合データベース D1-Law.com」は、第一法規が提供する法情報総合データベースサービスです。本学では、「現行法規[履歴検索]」、「判例体系」および「知的財産権法」が利用できます。同時アクセス数は2名です。

○ 「今日の診療WEB版」

これまで、医学分館内の情報検索コーナーの特定のパソコンだけの利用だった、「今日の診療DVD版」を、4月から、「今日の診療WEB版」へ変更します。

「今日の診療WEB版」は、医学書院の下記13冊を収録した電子書籍です。同時に13冊を検索可能です。また、学内からの同時アクセス数は3名です。

* 収録書籍

- ・今日の治療指針（2011年版・2010年版）・今日の診断指針・今日の整形外科治療指針
- ・今日の小児治療指針・今日の皮膚疾患治療指針・救急マニュアル・医学大辞典
- ・新臨床内科学・内科診断学・治療薬マニュアル・臨床検査データブック・臨床中毒学

それぞれ、利用を終了する時は、必ずログアウトボタンをクリックしてください。

◎ 講演会「自殺予防の基礎知識」を開催 [医学分館]



2011年10月28日（金）、医学部キャンパスにおいて、高橋祥友防衛医科大学校教授による講演会「自殺予防の基礎知識」を開催しました。

この講演会は、平成23年度山梨大学附属図書館医学分館地域貢献事業として実施したもので、約60名が聴講しました。高橋講師は、「“孤立”が自殺のキーワードであり、“気づき”と“絆”で自殺予防を行うことが結論である」と最初に話を始め、続いて、自殺予防の2大方針と十か条、患者さんへの大切な心構え、治療の原則、不幸にして自殺が起きてしまった時の対応、遺された人々へのケアなどについて、順序だてて分かりやすく、時にやわらかい内容も取り入れ、講演されました。

参加者からは、「自殺は身近な問題、一人がかかえこまず今後チームで関わっていくことが必要」、「来年から医師になるので、先生から教えていただいたことを役立てていきたい」、「自殺予防のポイントを分かり易くご説明いただいた」などの感想が寄せられました。

Library Topics

◎ 新館資料の移動 [本館]

本館2階新館が新学部設置に伴い、生命環境学部事務室となります。新館に配架されていた資料は以下の通り場所を変えました。地下書庫の資料は平日17時までのご利用となります。

- JIS,白書,新聞縮刷版 → 3階閲覧室
- 一般図書 → 2階文庫新書書架
- 大学年史 → 地下書庫

CHECK IT!!

◎ 医学分館カレント雑誌コーナーをリニューアル [医学分館]

医学分館では、1階正面玄関横のカレント雑誌コーナーを一部リニューアルしました。書架を入れ替え壁際に配置することによって、明るく広々としたゆとりのある空間になりました。また、新しい雑誌を一度に見渡すことが出来るようになり、より手に取りやすくなっています。是非、カレント雑誌コーナーをご活用ください。



◎ テーマ展示「新生活におくる本」開催中 [本館]

学生の方々に新しい趣味分野への興味を持ってもらうため、期間ごとに1つのテーマを設定し、関連した図書を展示、貸出をする「テーマ展示」。今回は、昨年非常に人気のあった「新生活におくる本」です。“ひとり暮らし”“料理”“学生生活”などのキーワードで選書しました。全て貸出可能です。ひとり暮らしが初めての方、料理の腕をあげたい方、ぜひご利用ください。新しい発見がありますよ。



◆イベント詳細については、ポスター・パンフレット・山梨大学附属図書館ホームページ等でお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしています。

学外の方への利用案内

本館及び医学分館は、山梨大学以外の大学生をはじめ一般の方々も利用できます。詳細については、<http://lib.yamanashi.ac.jp/>をご覧ください。本館 Tel:055-220-8066 (情報サービスグループ)、医学分館 Tel:055-273-9357 (医学情報グループ)にお問い合わせください。



● 表紙撮影：図書・情報課 職員
場 所：山梨大学（甲府キャンパス：子ども図書室）

山梨大学附属図書館報
「やまなし」
第9巻第2号

2012年3月21日 発行
編集：館報編集委員会
発行：山梨大学附属図書館
〒400-8510
甲府市武田四丁目4-37
TEL 055-220-8063